

宮崎県教育委員会 令和2年度完了報告書

1. 調査研究概要

(1) 調査研究の内容

①カリキュラム・マネジメント実践校による取組

a 学校の教育目標の設定及び実現に向けた研究（日向高等学校）

研究テーマ「学校魅力化プロジェクト」カリキュラム・マネジメントで生徒を伸ばす
学校の教育目標を「日向スクールコンセプト（日向SC）」として設定し、主に組織作りや学校行事における取組について実践研究を実施。

b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究（都城西高等学校）

研究テーマ「資質・能力」を育成する教科横断的なカリキュラムの実践研究
学校の教育目標を「生徒に身に付けさせたい資質・能力（NP9）」として設定し、主に各教科における評価の在り方の取組について実践研究を実施。

c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究（宮崎南高等学校）

研究テーマ「総合的な探究の時間」を通して教科横断的なカリキュラム開発
学校の教育目標を「地域の次世代リーダーとして地域に根差し貢献できる人材の育成（鵬ディプロマポリシー）」として設定し、主に「総合的な探究の時間」と各教科を有機的に結合させるカリキュラム開発を実施。

②資質・能力育成研究会（マネジメント研究部門）における取組

各校にカリキュラム・マネジメント担当者を配置し、カリキュラム・マネジメント実践校の取組についての実践発表や外部講師による講演等の研修（オンライン）を実施。

また、総合的な探究の時間担当者や副校長・教頭、教務主任対象の研修会（一部オンライン）においても、カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえた研究協議を実施。

(2) 成果や課題

①の実践と②の研修を連動させたことで、カリキュラム・マネジメントについての理論的・実践的な理解を県内全ての学校に広げることができた。また、コロナ禍においても、オンラインを活用して、実践校の取組についての研究協議を継続したことで、令和4年度から年度進行で実施される新教育課程の編成を、カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえて検討することができた。

(実践地域における年間実施スケジュール)

月	取組内容
5月	第1回カリキュラム・マネジメント検討会議（28日） ・前年度実践報告と今年度実践計画 ・各実践校の取組の現状と課題 ・「カリキュラム・マネジメントの手引き」の構想
7月	第1回「資質・能力育成研究会（マネジメント研究部門）」（13日）

	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間担当者対象の研修会 60名参加 ・総合的な探究の時間とカリキュラム・マネジメントの講義・演習・研究協議
10月	<p>第2回カリキュラム・マネジメント検討会議（15日）オンライン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各実践校の取組の現状と課題 ・カリキュラム・マネジメント研修会の内容検討 ・「カリキュラム・マネジメントの手引き」の内容検討 <p>第2回「資質・能力育成研究会（マネジメント研究部門）」（27日）オンライン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・マネジメント担当者対象の研修会 60名参加 ・カリキュラム・マネジメントの講義・実践発表・講演
1月	<p>第3回「資質・能力育成研究会（マネジメント研究部門）」（13日）オンライン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・副校長・教頭、教務主任等を対象の研修会 90名参加 ・カリキュラム・マネジメントと学習評価についての説明・協議 <p>第3回カリキュラム・マネジメント検討会議（26日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・マネジメント実践校の取組の総括 ・次年度の取組についての協議
2月	<p>「カリキュラム・マネジメントの手引き」編集作業</p> <p>「カリキュラム・マネジメントの手引き」編集会議</p>

※事業委託契約日が6月1日であるため、第1回カリキュラム・マネジメント検討会議（5月28日）は、県の予算で実施。

2. 調査研究の内容

実践校【日向高等学校】

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究

「学校魅力化プロジェクト」～カリキュラム・マネジメントで生徒を伸ばす～

(2) 調査研究の内容

- ・学校の課題と教育目標を明らかにして共有化を図る手立て
- ・評価を核としたPDCAサイクルを構築する手立て
- ・生徒の日向スクール・プライド力(以下日向SP力)を日常的に向上するための手立て
- ・職員の当事者意識を高め、主体的・継続的な取組にする手立て

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

(成果)

- ・職員研修の中で学校経営方針における「生徒に身に付けさせたい5つの力」、「日向SP」の共有化が図られた。
- ・「日向SP」をより具現化する取組として生徒のルーブリック評価シートを作成し、2か月間隔で実施することができた。
- ・学校行事や生徒指導の際、SP力の向上を意識した取組、また同時に実施している規範意識のチェックシートの活用により日常的な意識の向上が図られつつある。

(課題と改善策)

- ・新型コロナウイルス関係により職員研修の時間の確保が難しかった。今後、どうしていくか、会議の時間の設定の工夫、回数を増やさない配慮が必要である。
- ・教育目標に基づいた生徒へのSP力の向上をどうアナウンスしていくのか、時宜を逸することなく継続的なものにしていかなければならない。そのためにも定期的なチェックシートの実施が必要である。
- ・客観的なエビデンスの示し方の工夫。特に外部の資源をどう効果的に結びつけるのか、市や企業、地域の方々との連携をより密接に図っていく。

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
5月	第1回カリキュラム・マネジメント検討会議
7月	日向高校 SP チェックシート 1回目実施 カリ・マネ校内研修会
9月	日向高校 SP チェックシート 2回目実施 カリ・マネ校内研修会
10月	カリ・マネ校内研修会 教頭会「教育課程委員会」実践校事例報告
11月	第2回カリキュラム・マネジメント検討会議
11月	日向高校 SP チェックシート 3回目実施
11月	教頭会秋季研修会「教育課程委員会」実践校事例報告
1月	第3回カリキュラム・マネジメント検討会議 チェックシート 4回目実施
2月	カリキュラム・マネジメントまとめ カリ・マネ校内研修会

実践校【都城西高等学校】

(1) 研究テーマ

- ☑ b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究

「資質・能力」を育成する教科横断的なカリキュラムの実践研究

(2) 調査研究の内容

- ・学校教育目標を具現化する9つの「生徒に身に付けさせたい資質・能力(NP9)」を育成する授業と評価の在り方を検討する。
- ・教科の評価表の基となる学校全体の「NP9評価表」を生徒・教師に浸透させる。
- ・日常的には授業の中で各教科・科目の評価表を活用し、学期ごとに「NP9評価表」を活用する。

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

(成果)

- ・NP9の育成を踏まえた年間指導計画や単元指導計画、単位時間の指導計画等を作成し授業実践に取り入れることができた。
- ・各教科で身に付けさせたい資質・能力を段階的に示した「スキルを伸ばす評価表」を作成し、生徒と教師が授業の中でターゲットにする資質・能力を共通認識しながら授業を進めることができた。
- ・点数化するのではなくグラフ形式で生徒自身の変容を確認できる「NP9評価表」を作成・活用した。回答結果を学年ごとに集計した結果、各資質・能力が向上していることがわかった。

(課題と改善策)

- ・評価表のルーブリックを4段階で設定しているが、各段階の違いがわかりにくいいため、生徒も教師も正確に評価できていない場合があり、シンプルにイメージできるルーブリックへと改善する必要がある。
- ・NP9を、より生徒や地域の実態に合ったものへと見直し、生徒に身に付けさせたい資質・能力を観点別評価と連動できるように3つに分類できないか検討する。
- ・評価表を4段階に分け、学年ごとに上のレベルを目指しながら卒業までにSレベルへの到達を目指すことを考えたが、授業が行われる学年が限定される教科では異なる基準が必要である。

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
4月	①年間指導計画、②単元の指導計画、③単位時間の指導計画の完成と各教科での情報共有・確認
5月	第1回カリキュラム・マネジメント検討会議
7月	③単位時間の指導案に基づいた研究授業、「NP9」の観点を意識した期末考査の実施、「NP9評価表」による学期末自己評価・分析
10月	第2回カリキュラム・マネジメント検討会議、「スキルを伸ばす評価表」作成
11月	「スキルを伸ばす評価表」を活用した授業実践
12月	「NP9評価表」による学期末自己評価・分析、「カリキュラム・マネジメントの手引き」原稿作成

実践校【宮崎南高等学校】

(1) 研究テーマ

- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

本研究をするために必要なことは、生徒が行う「課題研究」と普通の学校で学ぶ「各教科」とを「カリキュラム・マネジメント」の視点でつながりをもたせることである。そして、それぞれの取組によって生徒に育成できた「資質・能力」を測定し、その結果をもとにしてP DCAサイクルを回し続けることだと考える。

本校は本研究とは別に、昨年度から3か年、文部科学省より「産学官連携による人の地域循環教育プログラムの研究開発」の研究名で指定研究を受けている。この課題研究の開発目標は「身近な地域社会の問題を自分のこととして捉え、新たな解決策を地域に寄り添いながら提案、実践できる人材の育成」であり、将来の宮崎市を担う人材を養成するプログラムである。また、指定研究の研究カテゴリーは「工学」「食・農業」「教育」「観光スポーツ」「起業」「医療」の6つに設定している。これを「課題研究」とする。

「課題研究」と「各教科」それぞれの取組によって、どれだけ生徒に狙った資質・能力が育成できたかを測るために、「鵬DP評価」を設定した。この「鵬DP評価」とは、本校が生徒につけさせたい力を6つの項目に分け、4段階評価するものである。以下にその6項目と各項目の定義を示す。

鵬DP評価

- | | |
|---------|---|
| 1 再認識力 | 考えたり、振り返ったりできたり、得た知識や技能を応用できる力 |
| 2 情報収集力 | 調べるための手段や対象を適切に設定できる力 |
| 3 問題発見力 | 課題を的確に捉えたり、捉えた課題から新たな視点や発見ができる力 |
| 4 分析力 | 論理的に思考できたり、データの特徴を的確に捉えることができる力 |
| 5 共感力 | 自分の意見を主張するだけでなく他者の意見や感情を理解することができ、さらにいろいろな意見を総合してよりよいものを創造することができる力 |
| 6 表現実行力 | 物事を他者に伝えられたり、実際に行動につなげる力 |

この鵬DP評価が実際に生徒にどれくらい育成できたかを定期的に「鵬DP評価表」で評価していく。これにより、評価の段階がどのように変化していくかを検証することで、「現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成」方法が一般化できるものと考えている。

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

本年度は、昨年度に引き続き、設定した評価規準である「鵬DP評価」を用い、「課題研究」の発表会及び「定期考査」の評価問題を作成・実施した。

昨年度の課題であった鵬DP評価の6項目を学校全体の変容と生徒各人の資質・能力の変化を視覚的に捉えられるツール開発ができたことが本年度の成果である。ただし、このツールは数年間かけて改善をしていく必要があり、このことが次年度以降の課題である。

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
5月	第1回カリキュラム・マネジメント検討会議 ・カリキュラム・マネジメントについての講義・演習 ・研究協議にて、本校の目標、計画、方法、内容等についての説明
6月	第1回カリキュラム・マネジメント校内職員研修会 ・カリキュラム・マネジメントを実施する意義についての説明 ・昨年度定期試験で実施した「鵬DP評価」を活用した作成問題の振り返りと今後の作問についての検討（教科ごと）
7月	生徒探究活動本格実施
8月	
9月	実践研究1 生徒課題研究中間報告会
10月	第2回カリキュラム・マネジメント検討会議（オンライン開催） ・中間報告 ・研究成果の検証方法についての研究協議 令和2年度資質・能力育成研究会 カリキュラム・マネジメント研修会（オンライン開催） ・中間報告 ・研究協議にて、本校の進捗状況の説明 ・講演会（岡山県青少年教育センター閑谷学校 所長 香山 真一）
11月	第2回カリキュラム・マネジメント校内職員研修会 ・来年度以降のカリキュラム・マネジメントの構想 ・来年度以降使用する生徒自己評価票についての検討
12月	実践研究2 ・2年課題研究発表会 ・鵬イノベーションコンテスト分野別テーマ発表会（1年）
1月	・鵬イノベーションコンテスト総合発表会（1年） 第3回カリキュラム・マネジメント検討会議 ・研究のまとめ
2月	・学年末考査での鵬DP評価を用いた「評価問題」出題

3. 実践地域全体としての調査研究の結果明らかとなった成果や課題と改善方策

(○：成果，●：課題)

- カリキュラム・マネジメント実践校では、育成を目指す資質・能力を設定し、日向高校では主に学校行事、都城西高校では各教科、宮崎南高校では総合的な探究の時間について、カリキュラム・マネジメントの実践研究を進めることができた。
- 資質・能力育成研究会（マネジメント研究部門）における取組については、カリキュラム・マネジメント実践校の実践研究と各校の担当者向けの研修会を融合させたことで、高等学校ではイメージしにくい教科横断的なカリキュラムの在り方について、議論を深めることができ、その内容は、「カリキュラム・マネジメントを進める上での手引き」において「Q&A」形式でまとめることができた。
- また「カリキュラム・マネジメントを進める上での手引き」においては、上記の実践校の取組の他に、STEAM教育との関わりで総合的な探究の時間やICTを活用した学びの保証などの、新しい教育課題についても解説することができた。
- 今後の課題としては、高校教育改革における「スクール・ミッションとスクール・ポリシーに基づくカリキュラム・マネジメント」が求められる。教育課程行政として各学校に方向性を示しつつも、2年間の実践研究や研究協議の議論を踏まえて、各校のカリキュラム・マネジメントの支援を進める。特に、「スクール・ポリシーに表された資質・能力の具体的な達成水準についての分析・記述を通じた職員間の共通理解」や「授業研究において、スクール・ポリシーと関連付けた授業研究の主題設定」等に重点的に取り組みたい。